

そう思いつつ目が重くなって来た

春が近い。

風はこの間の様には感じられない。

幹夫と共に、自転車でゆく。
幹夫の自転車の後をついてゆく。

天気はいい。

壮大な眺めである。

そう寒くはない。

しかし、風は強かった。

春が近い。

八幡町の方のあの山も
地平線には、はるか、こんもりと見える。
宇治川が、そちらに向かって
ゆったりと流れる。

「あの子は今頃どうしているだろう。」
と思い、再び、絵を書き始める。

家に帰ると二時。

三時に風呂に入り、すぐ眠る。

昼寝だ。

六時頃、起き上がる。

